

## 第1回札幌市立小中学校適正配置審議会 発言要旨

## 【学校規模適正化の意義・必要性について】

- クラス替えができないと人間関係が固定化する。様々な人間と関わって子どもは成長していくので、それが可能な環境を整えることは重要。
- 学年の担任が1人になると、習熟度別の指導や課題別グループをつくって学習を進めていく際に指導者の確保が困難。他に校外に引率する学習活動等にも影響がある。
- 大人との出会いも重要。教職員もある程度の人数がいて、様々なタイプの教職員がいるから、いろいろなタイプの子どもたちの良さに気づけるし、支援ができる。
- 人間関係をうまくつくれなかったり、つまづきがあったりした時の、リセットの機会の保障という観点でも、クラス替えができることは重要。
- 中学校では、9教科の専門性を有した教職員の配置は欠かせない。
- 小規模校の良さは、教職員も子どももみんなの顔と名前が一致すること。ただうまくいっているときはいいが、行き違いなどがあつたらその関係性の中で進級するのはつらい。
- 学校訪問の際、規模が小さいほど学校の特徴をつかみやすいが、大きくなるとちょっとつかみにくくなることもある。
- 子どもたち一人ひとりと丁寧に関わることができ、顔が見えるという小規模校の良さは認めつつも、学校の大切な役割は、子どもたちの社会性を育て視野を広げること。そのためには、多くの人と関わることも重要なこと。
- 人間関係の固定化や遠足でバスが使えない、修学旅行が実施困難な状態までなっている場合、子どもたちの教育環境を考えると早急に学校規模の適正化を進める必要がある。
- 学校運営でも、多くの職員がいることで、子どもの良さを感じ取ったり、様々な社会的要請や課題が次々と生じたときは、お互いに支え合ったりすることもできる。
- もみじ台地域が2校になって、相談支援カウンセラー等の負担が軽減されている。
- 大規模校のいい点は、運動会や合唱コンクールなどの学校行事が、切磋琢磨して盛り上がること。
- 大規模校は、学びのサポートスタッフがティーム・ティーチングなど多種多様な取組ができ、先生や子どもの目が生き生きしている。
- 小規模校は学校運営面で厳しい。運動会などの各行事や、職員の健康診断受診も余裕がない。
- 子どもたちに求められる資質は、やはりコミュニケーション能力。色々な人と出会う中で人間関係形成能力を培うことが求められており、多様な出会いがある学校規模は教育環境として必要。少子化、核家族化が進んでいる現代だからこそ、学校教育で力を入れていくべきところでもあり、その中で豊かな学びも進んでいく。